

川崎市青少年科学館進行管理・評価の概要と目的

川崎市青少年科学館(以下、「科学館」と言う。)は、川崎市青少年科学館運営基本計画(以下、「運営基本計画」と言う。)に基づき、運営基本計画で定めた科学館の理念を達成するために進行管理・評価を行い、課題や成果の共有と、組織的・継続的な改善を進めます。また、評価の公表によって事業の客観性・透明性を確保し、市民・利用者への説明責任を果たします。

科学館の評価体制

科学館では、進行管理・評価の導入にあたり、館職員による自己評価と諮問機関である青少年科学館協議会(以下、「協議会」と言う。)による評価を併用します。科学館が自ら目標を設定し、達成状況について分析して、成果と課題を明らかにするとともに、その妥当性を協議会による客観的な視点から検証し、事業や運営に関しての具体的な改善方策などの助言を受けます。

※これまでの「青少年科学館協議会」は、川崎市の全庁的な付属機関の見直しに伴い、平成28年度より「川崎市社会教育委員会議」の「専門部会」に位置づけられることになりました。諮問機関としての機能はこれまでの「協議会」と変更ありません。

評価区分

以下の通り評価区分・達成度区分を設けます。

<評価区分>

区分	内容
A	<u>目標に向かって順調に課題解決が図られているもの</u> ●目標の実現を阻害するような新たな課題や残された課題等はなく、目標に向かって順調に進捗している場合
B	<u>目標に向かって一定の成果が上がっているもの</u> ●新たな課題や残された課題等があるが、目標の実現に向けて今後も現在の取組を継続していくことで対応できる場合
C	<u>課題解決が不十分で取組の改善が必要なもの</u> ●新たな課題や残された課題等があり、目標の実現に向けて、計画の見直しや取り組みの改善が必要な場合
D	<u>課題解決が図れていないため、抜本的な見直しが必要なもの</u> ●前提としていた諸条件が大きく変化し、取り組み内容の抜本的な見直しを行わなければ目標の実現が困難な場合

<達成度区分>

区分	内容
5	<u>目標を大きく上回って達成</u> ・目標に明記した内容よりも相当高い水準であった。 ・目標に明記した数値を大きく上回った。
4	<u>目標を上回って達成</u> ・目標に明記した期日通り達成し、明記した内容よりも高い水準であった。 ・目標に明記した数値を上回った。
3	<u>目標をほぼ達成</u> ・目標に明記した期日、内容どおりに達成した。 ・目標に明記した数値とほぼ同じであった。 ・おおむね適正に処理し、業務遂行に支障がなかった。
2	<u>目標を下回った</u> ・目標に明記した内容・期日のいずれかが達成されなかった。 ・目標に明記した数値を下回った。
1	<u>目標を大きく下回った</u> ・目標に明記した内容・期日のいずれも達成されなかった。 ・目標に明記した数値を大きく下回った。

川崎市青少年科学館 平成27年度事業評価概要 (川崎市社会教育委員会議 青少年科学館専門部会)

事業計画に基づく評価区分		自己評価	(青少年科学館)自己評価達成度補足	総合評価	主な専門部会評価意見
展示事業	自然展示	3	新たな資料による展示の追加及び更新を行った。また、生田緑地の自然についてSNSなどでリアルタイムな情報発信を実施した。	B	●「天文展示」は評価A(目標に向かって順調に課題解決が図られているもの)、「自然展示」「科学展示」は評価B(目標に向かって一定の成果があがっているもの)とされた。 ●定期的な展示解説の実施、天文展示や屋上天体観測施設(アストロテラス)の有効活用、実施できなかった「先端科学技術展」の実現などが課題として挙げられた。
	天文展示	4	聾学校向け字幕付き学習投影や「ベビー&キッズアワー」等の利用者定着などプラネタリウムの多彩な取組ができた。	A	
	科学展示	2	契約方法の変更により、協力企業が得られず、結果として「先端科学技術展」が開催できなかったため。	B	
教育普及事業	自然体験	3	自然調査団との協働事業「生田緑地観察会(年36回)」ほか、「自然ワークショップ」等様々な教育普及活動を展開した。	A	●全ての項目で評価Aとされ、各分野の取組みが高く評価された。 ●定員超過事業の受入体制の充実、定員割れ事業の広報や内容の再検討などが課題として挙げられた。
	天文体験	3	「アストロテラス」「アストロカー」での天体観察の実施の他、「プラネタリウム番組制作教室」を小中学生対象に実施した。	A	
	科学体験	3	実験工房(年65回)をはじめ、子供・大人向けの実験教室を多数開催した。	A	
調査研究事業	自然分野に関する調査研究	3	第8時川崎環境調査報告書を編集・刊行した。	B	●全ての項目で評価Bとされた。 ●調査研究成果速やかな公表や広報の工夫、科学教育における調査研究手法及び成果の報告のあり方の再検討などが課題として挙げられた。
	天文分野に関する調査研究	3	アストロテラスの機材を活用し、「はやぶさ2」の観測や明治大学との連携による木星の観測を行った。	B	
	科学教育に関する調査研究	4	出前教室などで使う実験キット「玉手箱」の新規開発を行った。	B	
収集保存事業	自然資料の収集と保存・管理	3	収蔵標本の分類整理、登録を行うほか、国内外に収蔵標本の情報公開を進めた。	B	●全ての項目で評価Bとされた。 ●資料整理・保存のための体制整備・予算措置の充実、寄贈資料の整理・公開、科学教育における各種データ、ノウハウの蓄積・共有が課題として挙げられた。
	天文資料の収集と保存・管理	3	寄贈資料の整理を行った。	B	
	科学教育についての資料の保存・管理	3	実験教室の報告書を整理し、今後の有効活用に努めた。	B	
ネットワーク事業	展示・企画ネットワーク	2	「先端科学技術展」が開催できなかったため。	B	●「学習支援」で評価A、その他の項目は評価Bとされた。 ●展覧会の企画・協力体制、市の他部署や各分野の学会・協会との連携の推進などが課題として挙げられた。
	調査研究・収集保存ネットワーク	3	第8次川崎環境調査報告書の作成に係わり、県下専門機関や市内関係機関との連携を進めた。	B	
	学習支援ネットワーク	3	小・中学校理科優秀作品展を開催するなど学校支援を進めた。	A	
	地域振興ネットワーク	3	日本民家園との共催事業「お月見プラネタリウム」や多摩区役所との連携事業「星空コンサート」等を実施した。	B	
	生田緑地内ネットワーク	3	生田緑地サマーミュージアムや生田緑地スタンプラリーなどを開催した。	B	
管理運営	管理業務の実施状況	3	指定管理者との定期的な情報交換により、円滑な管理運営を実施した。	B	●全ての項目で評価Bとされた。 ●博物館活動を担う学芸員の終身雇用の確保、資料収集及び調査研究と、教育普及とのバランスが課題として挙げられた。 ●展示・収蔵資料を意識した防災対策、オリジナル商品の開発、外国人利用者への対応などが課題として挙げられた。 ●客観的な事業評価の実施にあたり、成果・課題の数値化による提示、評価に欠かせない十分な情報提供、現行の事業評価スケジュールの再検討などが課題として挙げられた。
	組織体制	3	天文や科学分野においてボランティア育成を行い、取組を進めた。	B	
	危機管理	3	定期的な避難訓練等を実施した。	B	
	施設の利活用(広報計画)	3	SNSなどを活用し発信力を高める等来館者層の拡充を図った。	B	
	施設の利活用(科学館の魅力を高めるサービス展開)	3	インターネットによる申込み受付を拡充し、利便性の向上を図った。	B	
	施設の利活用(多様な利用者への配慮)	3	聴力障害者を対象とした字幕投影を実施した。	B	
	進行管理	3	中長期計画に沿って進行管理を行った。	B	